



東北大学 (宮城県)

多種多様な国際共修授業と文学専門科目が魅力

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 東北大学は日本で3番目の国立大学として1907年に創設されました。現在、10の学部、15の大学院研究科、3つの専門職大学院、6つの研究所があります。国立大学で最初に女子学生の入学を許可した「門戸開放の精神」と「研究第一主義」にもとづき、国際的な大学として、教育・研究で重要な役割を果たしています。

2) 学部名、教員数、学生数は次のとおり。

(2023年5月)

学部：文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部

教員：3,145名

学生：学部学生10,644名

大学院生 7,041名 計17,685名

② 国際交流の実績

留学生：2,145名 (90カ国・地域) (2023年5月)

外国人研究者：1,228名 (2022年度受入実績)

大学間交流協定：245機関 (36カ国・地域)

(2023年5月)



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2023年：留学生数2,145人、日研生2人

2022年：留学生数2,074人、日研生4人

2021年：留学生数2,044人、日研生4人

④ 地域の特徴

東北大学のある仙台市 (人口約100万) は城下町として栄えた都市で、現在は東北地方の経済・文化の中心地です。東京からは新幹線で1時間半の距離です。昔から「杜の都」と言われ、緑が豊かで美しく住みやすい都市として知られています。青葉まつりや七夕まつり、SENDAI光のページェント (イルミネーション) など、様々な季節のイベントが開催されます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本プログラムは、多様な日本語・日本文化関係の授業の中から、当人のレベル・目的に合う授業を選択して受講する方式です。自主的な学習・研究活動を好む学生に適しています。多くの日本語の授業に加えて、日本思想史、日本文学関連の授業を常時開講しています。発表の仕方やレポートの書き方など、アカデミック・スキルの指導にも力を入れています。

③ 受入定員

10名 (大使館推薦9名、大学推薦1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムへの応募者は、原則として次の条件を満たすことが求められます。

1) 中級以上の日本語能力 (国際交流基金が実施している日本語能力試験のN2以上の能力) を有すること。

2) 原籍大学において、日本語・日本文化に関する分野を主専攻としていること。

⑤ 達成目標

日本語能力の向上、および日本・日本文化に対する理解を深める。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

研修期間：2024年10月上旬 ~ 2025年9月下旬

(在籍期間：2024年10月1日 ~ 2025年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ~ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日

10月：オリエンテーション、開講式

10月-8月：日本文化研修 (文化体験：茶道、和太鼓、華道、七夕飾りなど)

国際交流行事 (日本人学生との交流会、国際祭りなど)

8月：修了発表会

9月：修了式

9月下旬：帰国



⑨ コースの修了要件

所定の課程（年間14コマ/週 以上）の修得を終え、修了レポートを提出し、指導教員がその成果を認めた留学生については、修了式にて修了証書を授与します。一つの授業（1コマ）は90分です。

表1. 修了に必要な履修コマ数

	種別	コマ数/週		
		秋冬学期	春夏学期	計
必修	日本語・日本文化演習	1	1	14以上
選択	日本語科目	2以上		
	国際共修科目	2以上		
	専門科目	2以上		
修了レポート（口頭発表含む）				

注：1学期に最低7コマは履修する

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- i) 研究に必要な日本語の高度な運用力、正確な読解力と文章構成力の養成を行い、日本語学や日本の社会や文化の研究手法や知識を身につけることができます。
- ii) 留学生と日本人学生がともに学ぶ、問題解決型・プロジェクト型の授業が数多く提供されています。協働学習を通してより深く日本を学ぶことができ、授業外でも日本人学生と積極的な交流を図ることができます。
- iii) 専門家に指導を受けつつ、興味のある分野について知識を身につけることができます。同時に、日本思想史、日本文学など様々な関連科目を学ぶことができます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

- ・「日本語・日本文化演習」

受講生が主体的に日本文化について調査を行い、修了レポートや研究発表の技能を習得します。

II) 選択科目・内容

i) 日本語科目

習熟度によって幅広く選択履修できるよう、各学期に中級～上級レベルの科目を提供しています。

表2. 選択科目（日本語科目）

授業科目		コマ数/週	時間数/学期
日本語中級 [受講生のレベル：B1]	総合	4	90
	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	漢字・語彙	2	45
日本語中上級 [受講生のレベル：B2]	総合	2	45
	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	漢字・語彙	1	22.5
日本語上級 [受講生のレベル：C1]	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	ビジネス日本語	1	22.5
日本文化演習	古文入門	1	22.5
	漢文入門*	1	12
	くずし字入門*	1	12
	前近代日本の歴史と思想	1	22.5

注：*はクォーター科目



ii) 国際共修科目

国際理解教育、国際化教育のため、留学生と日本人学生と一緒に受講するクラスです。小人数の授業で、コミュニケーション力やグループで活動するスキル等の向上が図れます。（ほとんどの科目が週1コマ、学期22.5時間）

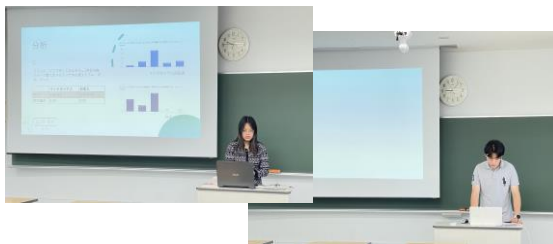
表3. 選択科目（国際共修科目）

秋 冬 学 期	・日本人学生と学ぶ初心者合気道
	・日本人学生とつくるフットサルチーム
	・日本語と英語で読む日本文学
	・敬語・日本語－メタバースで世界の言語と比較する－
	・操作する言語とメディア・リテラシー
	・日本言語文化のふしぎ発見
	・出身国・地域を日本から見る
	・多言語で読む源氏物語
	・歌に学ぶ日本の言葉と心
	・演劇的ワークショップ－展開編－
	・仙台の商店街を活性化して仙台全体を盛り上げよう
	・ウィンターコースを企画する
	・仏教と近代日本
	・グローバル・コミュニケーション
	・異文化コミュニケーション学応用(パーソナルリーダーシップ)
・近代日本の歴史と思想	
・近代におけるオカルティズムの歴史	
・外から見た日本の社会	

- ・日本人学生と学ぶ初心者合気道
- ・「お笑い」を通して日本文化を学ぶ
- ・世界と日本の課題をテーマとしたプロジェクト型学習で日本語コミュニケーション力を磨く
- ・おもしろい話とことば
- ・日本言語文化のふしぎ発見
- ・マルチメディア（マンガ・アニメ）で自文化紹介・異文化理解
- ・出身国・地域を日本から見る
- ・留学生と日本人学生の協働プロジェクト
- ・自己理解を深める
- ・留学生との日本文化やプロジェクトを通じた交流
- ・日本文化とコミュニケーション
- ・日本語の文法を外から見て考える
- ・映画に見る日本語と日本文化
- ・文学で学ぶ日本
- ・多文化理解実践
- ・演劇的ワークショップ-基礎編-
- ・グローバル・コミュニケーション
- ・異文化コミュニケーション学応用

iii) 専門科目

その他の全学教育科目と、主に文学部で開講されている一般学生向けの専門科目を履修します。



修了発表会の様子

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

多くの国際共修科目で文化体験を取り入れた授業を行なっています。例えば、「留学生と日本人学生の協働プロジェクト」は仙台市内の博物館や美術館を訪問します。「仙台の商店街を活性化して仙台全体を盛り上げよう」は仙台の商店街に実際に行き、フィールドワークをします。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

表3の科目はすべて日本人学生との共修です。

① 指導体制

1. 日研究生担当教員

菅谷奈津恵 高度教養教育・学生支援機構 教授
(専門：日本語教育)

2. 指導体制・学生の所属等

学生は文学部か上記機構に所属します。学生の指導は、上記教員を含む日本語教員と文学部教員が担当します。

※ 必要に応じて、日本人チューターが学習を手助けします。

■ 宿 舎

施設及び所在地

- ・国際交流会館三条第一会館 (仙台市青葉区)
- ・国際交流会館三条第二会館 (仙台市青葉区)
- ・国際交流会館東仙台会館 (仙台市宮城野区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条 (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条Ⅱ (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条Ⅲ (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス片平 (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス長町 (仙台市太白区)
- ・ユニバーシティ・ハウス青葉山 (仙台市青葉区)

【ウェブサイト】

<https://sup.bureau.tohoku.ac.jp/arrival/pre/finding-a-place/#1>

■ 修了生へのフォローアップ

プログラム終了後の参加者に本学教員が行うサポートは、基本的にはメール等の通信手段を用いたものとなりますが、担当教員が派遣元大学を直接訪問する形で参加者への事後の指導を行う機会を用意します。また、派遣元大学と本学との学術交流を促進すべく協議します。



■ 問合せ先

<担当部署>

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
言語・文化教育センター
担当事務：教育・学生支援部
留学生課国際教育係

住所： 〒 980-8576

宮城県仙台市青葉区川内41

TEL： +81-22-795-7817 (直通)

FAX： +81-22-795-7826

Email： sed2@grp.tohoku.ac.jp

<ウェブサイト>

東北大学 高度教養教育・学生支援機構：

<https://www.ihe.tohoku.ac.jp>

東北大学：

<http://www.tohoku.ac.jp/>